

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4392700052		
法人名	社会福祉法人昭寿会		
事業所名	福寿苑グループホーム		
所在地	熊本県阿蘇郡南小国町満願寺5861		
自己評価作成日	令和元年 9月27日	評価結果市町村受理日	令和元年11月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和元年10月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・開設(H20.9)以来、理念の「あなたらしさを失わず・・・」を大切に一人ひとりのご利用者の想いを職員が受け止めるサポートが定着し、ご家族や地域の方々には安心して任せて頂ける介護施設としての機能を発揮しています。同じ敷地内にある特養悠清苑との合同イベント(夏祭り・敬老会・文化祭・地域交流会)や地域のイベント(運動会・祭り・文化祭)や福寿苑単独での苑外活動(四季折々のドライブ・高塚参拝・ソーマン流し・バーベキュー大会・餅つき大会等)に参加して年間を通して楽しんで頂いています。また、看取り介護に対してもご利用者ご家族の希望に沿いながら穏やかな終末が楽しめる様に主治医と特養ナースと連携を組み最期の時をご家族と共に過ごして頂けたと思います。「認知症サポーター養成講座」では、南小国町主催で町内のキャラバンメイトと共に「南小国町中学生全学年対象」に啓発できました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設より11年が経過したとは思えないほど、ホーム内は清潔かつ大切に管理されており、入居者へ居心地の良い空間を提供している。地域で伝わる伝統行事や習わし、外出や法人施設での交流を通じて入居者は地域の一員としての自覚と喜びをもって参加している。地域密着型事業所として町の主要機関との連携が図られており、高齢者を災害や犯罪から守るためと題した講話や、夜間帯の防犯対策訓練など地元警察署からの指導は職員にとっても心強い後押しであったと思われる。また、本年度は法人全体で職員の処遇改善に力を注いでおり、リフレッシュ休暇や特別休暇の取得、以前からの永年勤続者の表彰、ホームでは休憩時間の変更等職員のモチベーションにつながる新たな取組もスタートしている。入居者の「その人らしさ」の追求に今後も力を注がれることが期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・全職員が理念を理解共有し、昼食前に唱和し確認し、利用者の生活が穏やかに過ごせる様に繋げている。	ホームは開設以来入居者の「その人らしさ」を追求し、一人ひとりが自分らしさを失わず、家族や地域との関係性を保ちながら、尊厳のある暮らしを支えることを理念の柱としている。離職の無い職場環境は入居者とのつながりが密であり、これまでの生活歴やここでの暮らしぶり、1対1の聞き取りによる満足度調査などから、個別ケアに特化した支援は、入居者の生き生きとした表情を引き出している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・地元のイベントには準備(草刈り)から職員が関わり参加しました。また町内の小学校のわくわくクラブ(けん玉)の小学生が毎年来苑し交流を深めています。苑内のイベントに地域の方が参加したりと交流ができています。	入居者は職員とともに法人施設での各行事に参加し、地域の人々と交流する機会をもっている。町内の伝統行事「大名行列」の見学、各祭りへの参加、地域資源を活用した外出等、入居者に馴染みの交流が継続されている。また、地元小学校の運動会には、毎回席を用意して迎えてもらうなど地域の一員としての活動基盤ができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・運営推進会議に24時間シートやひもときシート私の気持ち等を説明したり、認知症をテーマに話をしたりと認知症に対する理解を得ました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこででの意見をサービス向上に活かしている	・偶数月には必ず開催し、委員の方や家族会から参加を頂いています。現在の状況や活動内容や毎回テーマを決めて意見を頂き、H26年から小国警察署長さんにご講話を頂いています。	行政・警察署・社協・地域代表者などの関係者と、毎回数家族が参加し偶数月に開催されている。入居者の現状や行事紹介、ヒヤリハットや事故報告等とともに、会議ごとに認知症についてポイントを押さえたミニ講和や、地元警察署による夜間帯における不審者侵入への対応訓練の様子などを紹介している。参加者からの様々な発言がホームの情報発信だけに留まらず、地域とを結ぶ有意義な機会として定着している。参加できなかった家族へは議事録を送付し内容を共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・運営推進会議には必ず参加して頂き、日頃より何かある時は電話や直接役場に出向き尋ねています。	行政からの運営推進会議への毎回の参加により、入居者の現状をまじかに見てもらいながら、適切な意見を受けている。管理者は必要によっては直接役所を訪れ、運営上の相談事に応じてもらうなど良好な関係が築かれている。阿蘇地域の連絡協議会や行政主催の研修会への参加報告も運営推進会議で紹介している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・苑内研修や職員会議や勉強会に取り上げ、拘束や虐待に対して改めて知識を再確認しています。玄関の施錠はせず、自由に行き来出来る様に見守りを行っています。	法人やホーム内の研修、事例を通じた日頃の話し合い等で職員は身体拘束や虐待に対する認識を深め、法人全体でそれらをおこなわないケアの実践に取り組んでいる。入居者への聞き取りアンケートにも、それらにつながる入浴や排泄時の羞恥心への配慮等を盛り込んだ内容を作成している。夜間を中心に使用するセンサーマットについては、使用目的や内容を明記したプランにより家族の了承を得ている。	現在は帰宅願望により離設が心配される方はおられないが、山や水路など立地上注意が必要な箇所がある。今後も職員の目配り、気配りにより入居者の安全な日々を支えて頂きたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	・身体拘束と同様に研修や勉強会で意識付け教育をし、「職員の行動指針」を掲示して職員に確認をしています。また、不適切ケアについても話し合いの場を持ち、対応についても話し合いをしました。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・GH内での勉強会で学び、知識的には理解していると思いますが、それを活用できる対象の方は居られません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約時に丁寧に説明し、不安や不明な点はないか確認しています。また、介護報酬改定時や負担金値上げ等には説明を行い、承諾書を頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・運営推進会議や家族会総会には必ず家族に参加して頂き意見を聞き活用しています。ご利用者には半年に1回満足度調査を行い意見を反映させています。 例：帰宅願望時の送迎や電話をする等	運営推進会議や家族総会、普段の面会など家族同士が顔を合わせる機会や訪問は多く、職員は意見や要望の収集に努めている。家族や入居者への定期的なアンケートを工夫し、入居者へは聞き取り方式で要望を引き出し、支援に反映するようにしている。退居された家族が現在もボランティアとして来所されるなど、長い交流も継続されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・業務改善委員会やGH内勉強会や個人面談の時に意見を聞き、改善に役立っています。 例：避難通路の舗装・業務時間やケース記録の変更等	法人全体で職員の満足度調査が実施されており、本年度は休憩時間の変更やリフレッシュ休暇、特別休暇取得へ向けた取組がスタートしている。ホーム内は職員が自由に意見を出し合っており、風通しの良い環境となっている。建物北側にある連絡通路も法人施設へつながっており、緊急時の避難経路として新たに整備されている。	法人全体でアンケートに取り組まれたことを評価し、今後も職員の声を運営に反映されることを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・職員の満足度アンケートを実施し、今年から特別休暇にリフレッシュ休暇や超遅番手当を支給し、仕事にやりがいを持つ様に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・苑内外の研修に参加し学ぶ向上心を養い、また勉強会ではケアに対する問題点を解決できるような場にはしています。精神面に対しては年に1回のストレスケアを行い、産業医から面談もあります。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・阿蘇地域の地域密着型連絡会に参加し、情報交換や勉強の機会を頂いています。 近隣の同業者とも何か困った事がある時には相談したりとサービスの向上に繋がっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・コミュニケーションやスキンシップで信頼関係を構築し、不安や要望を自然に聞ける様に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・契約時に必ずご家族の要望を聞き、ケアプランに反映できる様にしています。ご家族との信頼関係を構築するにはやはりコミュニケーションなので自然に困っている事や不安な事を聞ける関係になる様に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・本人とご家族からの情報を得ながら他のサービスが必要であるか見極めながら対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・本人のペースに合わせて暮らしを共にする中で本人が出来る事やしたい事に対してできる様に支援していく様にしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・ご家族と過ごされる時間を大切に、居室で食事やお茶を摂って頂いたり、また自宅に帰省される時はこちらから送迎をしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・最近入居された方が敷地内の通所介護を利用されていたので本人の希望で週に2回一緒に過ごされる時間を継続しています。また地域のイベントや苑内の地域交流会で参加で交流支援をしています。	入居者の馴染みの祭りや、地域への外出、法人施設での交流行事を通じて知人との再会を果たし、地域の一員として生活する喜びを支えている。家族の面会や受診の協力、盆・正月の外出や定期的な帰省など、入居者にとって家族との時間は何よりのものとなっている。利用料は遠方の方は振り込みとしているが、家族に持参してもらい、面会の機会となるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・共に生活している中でお互いを気遣う声掛けだったり、利用者同士の中に職員が入り、利用者同士が関わり合えるような関係を築ける様に支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・福寿苑から悠清苑に転所されるケースが多いのですが引き続き相談支援を継続しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・本人とご家族から満足度のアンケートを取り、意向に沿える様に努めています。帰宅願望があれば自宅に帰れる様に送迎をしています。困難な場合はスタッフ間で話し合いをして検討しています。	職員は普段の生活の中から入居者の思いをくみ取っているが、年2回のアセスメントで入居者がどう暮らし、何をしたいかを衣食住などについて細かく言葉を投げかけ「ひもときシート」を完成させている。五目並べを楽しむ男性入居者や、好きな読書を続ける方など個々の楽しみや特技をプランに繋いでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・フェイスシート作成時に生活歴をお尋ねし、24時間シートやセンター方式の「私の姿と気持ち」やひもときシートを作成し、ケアに反映しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・本人の心身状態に合わせて無理のない様なペースに調整し、残存能力等を把握していきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・本人やご家族から意見や要望を聞き、「その人らしさ」があるケアプランを立てる様に心掛けています。医療的な事は主治医から意見を聞きます。ケアマネが中心に3ヶ月毎にモニタリングを行い、状態変更が必要な時はケアプランを変更します。	職員は家族とのコミュニケーションを大切にしており、意向や要望をプランに反映するよう心掛けている。プラン作成のプロセスを運営推進会議でも紹介し、本人・家族と一緒に作成されていることが窺える。テープ式オムツで過ごす最高齢の方であっても、日中はポータブルトイレでの排泄を支えたり、ホームへの要望に「今のところは何もない。その都度伝えるから」など本人の発せられた思いそのままを表記することで、家族にもわかりやすいプランとなっている。3ヶ月ごとの評価後、必要によってはプランを変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・毎日の様子やケアについてはケース記録に記入し、気づきや申し送りはカードックスに記入し、職員間の情報共有としケアプランの見直しに反映に活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・いつでもご家族と過ごせる様に柔軟な対応をしています。帰宅願望が強い時には自宅まで送ったり、病院の送迎もしたりとほぼニーズに対応できていると思います。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域の方との交流やイベント等の参加にて日々の生活が活き活きとなり楽しみになる様に支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・入居前のかかりつけ医の継続だったり、専門科を継続に受診したりと本人とご家族の要望通りに支援しています。	本人・家族の希望するかかりつけ医を支援しており、現在は殆どの方が協力医への定期受診や必要に応じて往診の他、治療の面から別の医療機関を家族対応で継続されている方もおられる。入居者の健康状態や受診結果は常に家族と共有を図り、状況に応じて、医師から電話で診察結果などが説明されている。口腔ケアについては食後の歯磨きや義歯の管理を行い、必要に応じて協力歯科医による訪問診療や法人全体で年1回口腔ケアに関する勉強会が開催され、日々のケアに生かしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・介護職員がケア時に気づいた時には看護職員に伝え、苑内の看護師が不在の時は同じ敷地内の特養の看護師にフォローする体制が整っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを	・入院時には、病院に面会に行き病院関係者に状態をお尋ねし、退院後について話し合う機会を設けています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・契約時に「重度化した場合における対応にかかる指針」を説明をし、同意を頂いています。この苑でできる医行為を説明し、病院とは違う家庭に近い状況でご家族と共にかかりつけ医と連携し、本人とご家族の希望に沿える様に支援しています。	入居時に指針をもとにホームの取組や、法人施設が特養であることを伝え、その時点での家族の思いや意向を尋ねている。その後、介護度が高くなるなど状態が変化した場合、再度確認をおこない、方向性について話し合う機会を持っている。この一年では、協力医との連携や家族による日中の面会、夜間の付き添いなどの協力により、安らかにホームでの最終を迎えられた事例がある。看取り支援は家族へもホームや職員の対応を含めたアンケートを依頼し、本人を偲びながらカンファレンスを開催している。	ホームは日頃の関わりを大切に、重度化・終末期支援は、家庭にいなな中で、協力医と連携しながらホームにできる最終の支援に努めている。家族からの信頼も大きく、安心して過ごされていることが寄せられたアンケートなどからもうかがえる。変わらぬ取組に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・毎年、法人全体で「救急蘇生法」を阿蘇広域北部消防署から救急救命士から指導を受けています。同時に詰まった時の対応や止血法、熱中症について学びました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・火災、水害、地震、不審者侵入時の対応を法人全体で訓練しています。阿蘇広域北部消防署や小国警察署や駐在所の職員の方の指導を受けて運営推進委員会で報告しています。地元の消防団にも参加案内をしております。	火災訓練は年2回以上実施し、職員の避難誘導方法など全員が的確に身につける事ができるようにしている。また、水害や地震など自然災害に関する訓練や警察署員より不審者侵入時の対応についても学んでいる。災害備蓄については、ホームで1日分、法人で3日分を備え、リストも作成している。有事に備えたホームの取組については、運営推進会議の中でも報告を行い、質問や意見を受けながら今後活かしている。	昨今の自然災害は予測をはるかに超え、ホーム傍に水路があることから、今後もあらゆることを想定した訓練などに取り組まれることが必要と思われる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを守り、プライドを損なわない言動をする様に心懸けて対応しています。苑内研修でも接遇マナーを学び再度確認しました。	入居者への尊重やプライバシーへの配慮など法人やホーム内でも研修の機会をもっており、職員は一人ひとりが望まれる時間を穏やかに過ごしてもらえよう取り組んでいる。呼称は基本的に苗字としているが同姓の場合は、下の名でも対応している。高齢の入居者にとって誕生日を迎える事は何より嬉しい事であり、ホームでは誕生日に家族を案内し一緒に祝ってもらう機会を作っており、会食も団上がりの畳の間や居室かの希望の場所で準備している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・本人の思いや希望が言える雰囲気作り(急がせない無理をさせない)をし、コミュニケーションを大切にしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・本人のペースに合わせて日々の暮らしを支援しています。職員間で利用者の希望を共有し、その方の状態に応じて支援できる様に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・外出やイベント時には気分が上がる様にお化粧をしたり外出着におしゃれをして頂く様に支援します。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・食事の嗜好調査を行い、四季折々の物(梅干しやラッキョウや団子作りや干し柿等)を作ったり、家庭菜園で取れた野菜を使って料理をしました。自分でできる事(献立書きや食器拭き等)を継続しています。	私の気持ちシートで食への希望を把握し、「○が好き」「ゆっくり食べさせてほしい！」など支援に繋げている。献立や調理は法人厨房で行っており、ホームでは、団子・饅頭など好みのおやつやラッキョウ・梅干し作り、菜園の野菜を使った一品などで喜んでもらえるようにしている。食形態も入居者の嚥下力に応じて提供しており、職員は見守りや介助を行い、昼食は検食を兼ねて1名が同じものを摂っている。野菜作りや下膳など入居者の出来る事で食への関わりを支援しており、広告の裏紙を使って、入居者手書きの献立紹介も継続されている。	職員は嗜好調査においても引き出し方を工夫し、日々の食事支援に活かせるようにしている。箸が止まった方に隣席の入居者が「これも美味しかったですよ！」「ゆっくりどうぞ！」など、声を掛ける光景が更に食事の雰囲気や和らげているようであった。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・毎回の食事摂取量や必要な方の水分摂取量のチェックをし、一人ひとりの状態に合わせた食事形態や食器の選択等を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後、口腔ケアを行っています。自分でできる方は見守り、できない方は介助します。毎日口腔体操を行い、口腔内トラブルには協力歯科医師に相談します。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・一人ひとりの個別の排泄パターンを把握し、本人のペースにあった声掛けや誘導を行っています。日中はトイレで夜間はPトイレを使用したりするだけオムツに頼らずに支援しています。	現在リハビリパンツを使用される方が殆どであるが、布パンツの方も3名おられる。共用トイレは2か所設けられ、部屋の近くや使い慣れた場所を使用されている。トイレが備わった3部屋の入居者は自室のトイレを使われており、職員は個々に応じて使いやすい環境を作っている。ポータブルトイレを使用される方もおられ、清潔に管理している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・毎朝牛乳、毎夕ヨーグルトに週2回バナナヨーグルト摂取して貰っています。また、ウキウキ体操やラジオ体操の継続もしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・本人の体調や気分に合わせて入浴しています。入浴時は癒しの音楽をかけたり、季節に応じた菖蒲湯や柚子湯を楽しんで頂いています。	入浴時はリラックスしてもらえるよう職員は言葉かけや雰囲気を中心、バイタルチェックで可否を見極めて週2～3回の支援を行っている。基本的にマンツーマンの支援であるが、車いす利用者には2名介助で安心して入ってもらえるようにしている。柚子や菖蒲湯を行う際は、全員が楽しめるよう数日間実施している。	明るい脱衣所や浴室は掃除も徹底されている。今後は窓の棚に置かれた洗剤については、浴槽に落ちないような安全面への配慮を期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・居室やリビングでの自由に休める様に声掛けをしています。夜間不眠時にはリビングでお茶等を飲みながらリラックスできる様に付き添います。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・服薬の内容が解り易い様に一人ひとりのファイルに綴り、変更があればカードックスの申し送りに記入し、各職員が周知できるようにしています。服薬時には3回名前と顔を確認して投薬します。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・天気の良い日はドライブや買い物や自宅への送迎等、職員が寄り添い車で連れて行きます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・閉じこもりにならない様に天気の良い日や季節毎の風景を観にドライブしたりと、高塚参拝やお雛祭りや藤棚、お彼岸には帰省したりと楽しみにしています。	隣接する法人施設で開催されるイベントや、散歩、菜園の様子を見に行くなど個々に応じて身近な外出支援に取り組んでいる。また、法人のリフト車やホーム車両を使用し、可能な限り全員で外出できるようにしている。カレンダーに記された外出予定を楽しみにされる方もおられるようである。盆・正月の帰省や毎月、二泊三日で自宅に帰られる方、通院など家族の協力が得られている。彼岸の仏様まいりなどはホームでも支援している。季節の花見は地域の開花情報をもとに出かけており、福祉まつりには、家族へも声をかけ現地で集合を依頼し、一緒に楽しんでもらう機会をもっている。	今後も地域や家族の協力を得ながら、入居者が戸外に出る機会を支援していきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・自分で管理できる方は少額自己管理しています。出来ない方は事務所の方で管理し、必要時出しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・いつでも希望があれば電話できます。また、年賀状を本人がご家族に書いて投函しています。 担当職員から近況状況と写真を添えてお手紙を年6回だしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・共用のリビングにや季節毎の飾りをし季節感を味わって貰ったり、リビングから見える様に家庭菜園や干し柿を作ったり、室内の温度調整や空気清浄器や加湿器等を使って居心地の良い空間づくりをしています。	職員は敷地内に咲いたものや、自宅から持ち寄った草花を随所に飾り、季節感や和やかな空間となるよう努めている。また、リビングから見える菜園のトマトやナスの色付きの様子は、入居者の楽しみとなっている。段上がりの畳の間が設けられたリビング食堂は、入居者の状況に応じて、席の配置や温湿度管理がされている。入居者同士労わり合う光景や、職員の個々を尊重しながら会話や誘導を行う姿は、一人ひとりの居心地のよさに繋がっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・本人の好きな場所で過ごせる様にソファや椅子や掘りごたつもあり、居場所の工夫をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・利用者の居室の家具はそれぞれが使いやすい居心地が良い様に配置にし、本人の思い出の写真や品が飾ってあります。	入居の際、安心して過ごせる居室となるよう、本人にとって必要な品を持ち込んで欲しい旨を伝えている。広めのクロゼットが備わっており、衣類や排泄用品がきちんと収納されている。職員は臭気や埃などが無いよう掃除を徹底し、家族も必要な品をその都度持参したり、本人が好みの衣類を取り出しやすいよう、クロゼット内のバーに長めのフックを準備するなど一緒に居室作りが行われている。昼食後の居室で家族が好きな本を持参してくれることや、眺めも良くお気に入りの部屋であることなど、嬉しそうに語ってくれる入居者の表情が印象的であった。	家族からも居室を含むホーム内の手入れが行き届き、本人のみならず気持ちよく来訪できることなど感謝が寄せられている。継続した取組に期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・利用者の目線に合わせて表示をしたり、尿意便意時にベルを使って知らせたり、また必要な場合は居室のトイレの導線に手すりを作ってみたりと本人ができる事をして頂ける様に工夫をしています。		